

SDGs 便り：第3次西東京市総合計画策定審議会に参加して

客員研究員（元グローバルビジネス学科特任教授） 土井隆司



西東京市は田無市と保谷市が2001年に合併した人口20万人を抱える郊外都市です。本学は2002年に同市と包括連絡協定を結び、本学のフィールドスタディーズをはじめとして市政の充実を図るための協働を進めています。しあわせ研究所通信 vol.106に記載されていた日本語コミュニケーション学科の村澤慶昭先生と5人の研究員の方たちが進める「多摩六都科学館との協働による、科学館を中心とした多文化共生活動への取り組み」などは、同市との象徴的な取り組みです。

西東京市総合計画策定のための審議・答申内容は10年間の同市行政の礎となり前回第2次西東京市総合計画策定審議会には本学の当時図書館長・文学部教授小西和信名誉教授、第2次の後期基本計画には工学部建築デザイン学科学科長(当時)水谷俊博教授が共に審議会副会長として参加されています。今回は本学学生部長で工学部建築デザイン学科教授の伊藤泰彦先生が会長を務めて、総合計画の骨子を作成しました。伊

藤会長の他に市民代表の4人と共に、私は学識経験者6人のうちの1人で“しあわせ研究所客員研究員”として参加しました。2021年11月にスタートして約1年8か月にわたる17回の審議を終えて昨8月7日に「第3次基本構想・基本計画案」を審議会から市長へ答申しました。期間中に市民と市長が膝を交えて話し合うシンポジウムその他多くの催しで延べ4,000人を超える市民の声を直接聞き共に市政に反映させる取り組みです。審議会では市民と共にまちづくりに求められる6つの基本的な視点を先ずまとめました。「みらい」、「たから」、「らしさ」、「つながり」、「いきがい」、「そなえ」の視点から“わたしたちの望み”として「ともにみらいにつなぐやさしさといこいの西東京」を目指す基本理念が出来上がりました。理念実現のための基本計画は、第2次総合計画を進化させる4項目に、新たに「SDGs（持続可能な開発目標）への取り組み」と「行政のデジタル化」の2項目が加わりました。

包括連絡協定を結び20年を経て、西東京市の今後10年間の行政のおおもとになる総合計画にSDGsが同市しあわせ社会構築の礎になります。本学ステートメント“世界の幸せをカタチにする”と軌を同じにするSDGsの事例が地元の西東京市で展開されることはこの上ない喜びとなりました。